1から4年。
たちに起こったことは
か？
私たちはどこへ進んで
いくのか？

カマレポ カフェ

2014.11.14 レポート

映画を1人でみるのと、仲間と一緒にみるのとでは、全然ちがう！

4.11.14にエコールみよたで開催した、上映会つきお茶会「カマレポカフェ」。お子さん
の若いお母さんから、80代のおじいちゃんおばあちゃんまで、たくさんの方々にご参加
だきました。
映内容は『カノンだより vol.2』ー今春上映の鎌仲ひとみ監督 最新作
さき声のカノンー選択する人々』製作現場からのレポートです。4つのドキュメントから
1、「原発事故後のチェルノブイリ（ウクライナ、ベラルーシ）の家族へのインタビュー映像」
島の二本松に住む母子が滋賀へ保養に出かけた記録」「福島県の県民健康管理
査の裏に隠された衝撃の事実を明らかにした📖『県民健康管理調査の闇』著者
のインタビュー」という内容でした。
病を抱えながら生きる人々や事故前はあたり前にしていた自然とのふれあい
はしゃぐ子どもたちと悩む母親の姿、県民の健康など全く考えていない行政
真実… ため息をつく映像、考えさせられる事実、苦難、驚き、怒り、喜び…
いい答えなんてわからないけれど、みんなそれぞれの場所でがんばって
きている…希望をもらいました。
上映後にお互いの感想や想いを話し合った交流の時間は、とても充実した
とときとなりました。皆さんのお話から、一部シェアしたいと思います。

「忘れがちになってしまうので、こういう機会が継続的にあるのはいい。」御代田 30代女

☺ ほんと、日常にまぎれて忘れちゃうんですよね… 継続しましょう！

「チェルノブイリ事故後にドイツに2度滞在した。食物の汚染やその日の風向きなど情報公開しており、その中で暮らすのは気分的に全くちがった。今の日本社会は弱者を苦しめる…」佐久 50代女

☺ 加害と被害が一緒になっている難しさ…だけではない!? 国民性？

「知る機会、大切だと思う」軽井沢 30代女

☺ "知って生きる"のと"目をそらして生きる"… どちらも明るく楽しい毎日だったら同じ!?
いやいや、全然ちがうハズ…

「チェルノブイリ時は"雨にぬれると大変だ"とか、今より情報や危機感があった。…得た情報をまわりに伝え、広げる必要性を感じる。」佐久穂 70代男

☺ 隠されている、何か大きなものに… そう感ぜずにはいられない世の中です。「となりの人に伝える」小さな一歩が世界を動かす、あきらめちゃだめだなー

「私たちは戦争の前と後で、まわりの大人や社会が180度変わるのを経験した。今の人は情報を、こんなものかーと受け取るばかりでなく、もっと考えてほしい」御代田 80代女

☺ ポチポチっとキーをたたけば何でもわかる…本当!? "考える"ってこと、していない…

「情報と経験を共有することだ」御代田 80代男

☺ 戦争を経験した世代の一言… ずしりと重いです。

「子どもたちがつらい思いをしないで生きていけるよう祈る」御代田 80代男

☺ 子どもたちには何の罪も責任も、背負わせたくありません。

「放射能を気にしている人としていない人でへだたりがあるのも何かちがう。心を合わせることの大切さを感じる」御代田 30代女

☺ 深いです… ついつい色メガネをかけてしまいます。まずは人対人、心対心、見失わずにいきたいなぁ…

「自分で考え、自分で行動する大切さを思う」佐久 30代女

☺ 若いお母さんです。こう感じる人たちが増えたら、もっと良い日本になるなぁ！

次回は3/13、「カノンだより vol.3」を上映します！皆様のご参加をお待ちしています☺ (さ)